

## 運動会・体育大会（春・秋）における組体操実施校への市教委訪問〔実態把握及び指導・助言による組体操指導のPDCAサイクル化〕

	学校への指導・助言等①	学校への指導・助言等②	成果や課題・当日の様子など
A	訪問日時・場所（5/16（火）10:40 体育館）	訪問日時・場所（5/25（木）13:40 校庭）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技の順序、タイミングの理解が十分でない児童が5名ほどいた。</li> <li>・全体的によく声が出て、多くの児童が終了時誇らしげな笑顔で退場した。</li> <li>・友達と息を合わせ、全員で一緒に表現しているという意識を高めることで、安全に技を成功させることができた。</li> <li>・児童の実態を考慮し、高さのある技をやめる判断をした。簡単な技でも出来映えを大事にしたり、集団行動と組み合わせた表現にしたりして発表することができた。</li> </ul>
	内容（・やぐら・扇・クイックピラミッド）	内容（通し練習）	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員体制は8名（5、6年6学級200名）</li> <li>・担任以外も授業のない専科教員等が入る体制ができています。</li> <li>・かけ声がなかったので、技を組んでいくとき、また解除していくときそれぞれの動きの中で大きな声を出させること、またできたときに褒めることで全体に広げていくことを指導した。</li> <li>・3段のやぐらでは、一度に完成させようとするのは危険なので、1段目と2段目だけの練習、2段目と3段目だけの練習で精度を高めてから行うよう指導した。</li> <li>・教員同士の細かい指導の共有が必要なことも指導した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導体制は10名（担任6名、補助の教員等4名）</li> <li>・準備運動としてラジオ体操とストレッチ運動を実施した。6年の一部の男子児童は真剣に取り組むことができず、私語をしたり運動以外のことをしたりしていた。</li> <li>・主担当の教員が全体指導する際に、話す位置が児童から遠いことがある。全体で指導する場合には、全体を見渡せ、声が届く位置に立つことを指導した。</li> <li>・波で、交差する腕はどちらを上にするのか共通認識を図るよう指導した。</li> <li>・「みんなの気持ちを一つにすること」が大切であることを教員が児童に伝えていた。児童がその意図を理解し、動きにつなげることが重要であることを伝えた。</li> </ul>	
B	訪問日時・場所（5/17（水）8:35 校庭）	訪問日時・場所（5/23（火）13:45 校庭）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5、6年生児童が気持ちを込めて意欲的に演技できた。</li> <li>・倒立など完成できた児童が多かった。できなかった児童については、無理に挑戦せず、座って待つという指導が活かされていた。</li> <li>・技を合わせる掛け声が非常によく出ている。</li> <li>・けがをして演技できない児童には、太鼓をたたくなど役割を与えていた。</li> </ul>
	内容（・波・5つのフラワー・旗を使った演技）	内容（1人技～5人技、クイックピラミッド、波、大きなフラワー、旗の演技）	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員体制は5名（5、6年5学級160名）</li> <li>・教員が安全面に対して厳しく指導し、児童も真剣に取り組んでいた。</li> <li>・教員がマイクなしで指導していたが、注意するときの言葉遣いを指導した。</li> <li>・見学者（5年男子2名）が、運動会当日も出られるか未定ということで、練習、本番の配慮を依頼した。</li> <li>・波では、内側に寄ること、手を頭の後ろで組むことを指導した。</li> <li>・肩車では、腰を曲げず、垂直に上げることを指導した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員体制は9名</li> <li>・前回指導した波、旗の演技等は完成度が上がっていた。</li> <li>・声もよく出ており、児童のモチベーションも高い。</li> <li>・2人技の倒立、サボテン、3人技の飛行機が、完成度に個人差が見られたので、無理をさせないこと、途中でできないと判断した場合の対処法を児童に指導するよう助言した。</li> <li>・サボテンで肩車から頭を抜く際に危険と判断したときは、下の児童は必ず手を離すことを指導した。</li> </ul>	
C	訪問日時・場所（5/18（木）13:40 校庭）	訪問日時・場所（5/25（木）10:40 校庭）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間起こしのフォローとして、勢いを付ける時に手を持つ児童がいるとよいという指導を実践したことで技が安定した。</li> <li>・2人の膝の上に1人が立つ時に、上の児童が安定しない時には、下の2人が我慢しないで手を放すことを徹底したことで、安全に技を行うことができた。また、下の児童は背筋を伸ばし、後ろに体重をかけるようにしたことで技の安定感も増した。</li> <li>・今年からサボテン・倒立は行わないことにし、安全に練習を行えた。</li> <li>・難しい2人技がなくなったので、練習の効率も良くなり無理のない計画通りの練習ができた。</li> </ul>
	内容（・3重のフラワー・波・人間起こし・クイックピラミッド・3人で行うフラワー）	内容（通し練習）	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員体制は13名（5、6年6学級198名）</li> <li>・校内指導体制が整っている。児童の取り組む姿勢も素晴らしい。</li> <li>・波は隙間なく体を寄せて腕を頭の後ろに組んでいないときれいにできないので、焦らせずきちんと体制が整ってから行うように指導した。</li> <li>・2人組の倒立、サボテン等けがのリスクの高い技を行わず、けがのリスクの低いタイミングがそろそろきれいな技を選んで指導していた。</li> <li>・人間起こしは、後ろに倒れるのが一番危険なので本番も大人がつくように指導した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員体制は13名</li> <li>・全体的に児童がよく集中し取り組んでいた。</li> <li>・教員の人数は多いが、誰がどこでどのように関わるのか計画されていない。</li> <li>・2～3人技での教員の配置を明確にするよう指導した。</li> <li>・「ひこうき」ができないグループを把握し、教員が補助につくよう指導した。</li> <li>・ピラミッドを崩すときの教員補助体勢を明確にするよう指導した。</li> <li>・配置図で教員の立ち位置を計画し、適切な補助をするよう指導した。</li> </ul>	
D	訪問日時・場所（5/19（金）10:35 校庭）	訪問日時・場所（5/24（水）10:35 校庭）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声をよく出して、集中して取り組んでいた。事故無く終了できた。</li> <li>・指導主事の指導・助言を生かして、職員の立ち位置を意識し、安全面に配慮して行うことができた。</li> <li>・実技研修で行った3人で行うサボテンを取り入れ、安全に行うことができた。</li> </ul>
	内容・1人技・2人技・3人技・4人技・集団行動・ソーラン節	内容・1人技・2人技・3人技・4人技・集団行動・ソーラン節	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導体制は3名（5、6年3学級84名）指導者の人数をできるだけ増やしてもらうよう指導した。</li> <li>・服装、挨拶等、児童の取組態度はよい。教員の言葉遣いを指導した。</li> <li>・大人数の技は行わず、1～4人の技に絞って行っていた。サボテン、倒立は3人、飛行機も4人で安全に行っていた。</li> <li>・3人の上に1人が乗るタワーも、児童のかけ声がよく出ていて安定していた。</li> <li>・集団行動は、隊形等事前に教員が共通理解した上で指導した方が効率よく練習ができることを指摘した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導体制は学級担任3名、補助教員1名の計4名体制。計画書では5名と示されており、安全面を考えて教員を増員するよう指導した。</li> <li>・前方に立っているだけの教員がいた。指導に関わる姿がほとんど見られなかった。教員間の役割分担を明確にするとともに、安全管理のポイントについて児童に指導するよう指導した。</li> <li>・複数人で行う技については、足を置く位置、相手のどこを手で支えるか等について再度確認し、児童に指導するよう指導した。</li> </ul>	
E	訪問日時・場所（5/24（水）11:00 体育館）	訪問日時・場所（5/31（水）11:00 校庭）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年でのソーラン節の最後の場面で3年生が3段タワーを1つ作った。</li> <li>・3段タワーを完成させる時間はかかったが、少しずつ組み立て、成功させることができた。サボテンとともに、無事に演技を終えることができた。</li> <li>・ソーラン節については、全生徒が息を合わせて取り組んでいた。</li> </ul>
	内容（ソーラン節、サボテン、3段タワー）	内容（ソーラン、サボテン、3段タワー）	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導体制は4名（3年生78名）</li> <li>・ソーラン節は、腰も低く、力強い。動きにメリハリがある。声も出ている。</li> <li>・サボテンは選抜メンバーで構成されており、安全にできていたが、ソーラン節の演技者と近付き過ぎないように指導した。</li> <li>・3段タワーは、長マットを敷いて、男子13人で行っていた。6人の1段目の周りに3人の生徒が立て膝で手を着き、階段の役割を果たし、登りやすくしていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導体制は6名</li> <li>・3年生がソーラン節の終わりにサボテンと3段タワーを組み立てる。</li> <li>・ソーラン節は全体がそろっており、キビキビとした動きであった。</li> <li>・生徒の意欲が非常に高く、見ごたえのある演技である。</li> <li>・タワー、サボテンの際、教員が安全確保のために補助に入っていた。</li> <li>・3段タワーは、欠席者等が出た場合には、代わりは生徒ではなく、教員が入ることを確認した。</li> </ul>	

	学校への指導・助言等①	学校への指導・助言等②	学校からの報告（成果や課題・当日の様子など）
F	訪問日時・場所 (9/15 (金) 5校時 体育館)	訪問日時・場所 (9/27 (水) 5校時 体育館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変形ピラミッドの際に1段目の児童の肩付近に手を置かせることにより、安定したピラミッドを作ることができた。本番でもきれいに決まった。</li> <li>・ウェーブで手の組み方を伝えたことにより、きれいなウェーブができた。リズムに合わせたスピードのウェーブができた。</li> <li>・児童に、当日は午後で様々な競技を終えて疲れているときに行くと伝え、本番の自分の状況を事前に伝えた。また、午後の練習も行い、本番を想定した。運動会当日は、自分たちの様子を事前にイメージできており、体調不良を訴える児童もなく、迎えることができた。けがなく終えることができた。</li> <li>・上の児童の決めポーズの反復練習を行ったことで、肘を伸ばすことができるようになった。本番では、決めポーズをきれいに決め、拍手をもらった。</li> <li>・当日は、指導の徹底ができ、けがなく演技し終えることができた。</li> </ul>
	内容 (組体操実施の心構え、一人技～三人技、波、クイックピラミッド、タワー) <ul style="list-style-type: none"> <li>・5、6年合同で実施。指導者は9名。</li> <li>・車椅子の児童は、その保護者と担任とで連携を密にとっており（保護者も授業に参加している）、どのような形で参加できるか・どう関わられるか等をよく話し合っ</li> </ul>	内容 (3人技～5人技、全員技、通し練習) <ul style="list-style-type: none"> <li>・5、6年合同で実施。指導者は8名。</li> <li>・タブレット端末を使い、動きを撮影し、共有サーバーに保存している。</li> <li>→教員用のタブレットから教員がそれぞれアクセスでき、教室のモニターで視聴することができる。</li> <li>・5人技では、グループの掛け声をもう少し大きくするとよいことを助言した。</li> <li>・それぞれの技の決めのポーズは、指先をピンと伸ばすと見栄えが良いことを指導するよう助言した。また、顔の向きや視線についても気を配るとよいことを助言した。</li> <li>・児童の気持ちが抜けた状態で運動すると、けがにもつながるため、メリハリのある指導をするよう依頼した。</li> </ul>	
G	訪問日時・場所 (9/15 (金) 5校時 体育館)	訪問日時・場所 (9/25 (月) 5校時 校庭)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導主事から、二人組演技を一組一組丁寧に見ていくこと、特に、倒立などは様々組み立て方も違ってくるので、安全面も考慮して一律での倒立完成は求めなくてもいいのではないか という助言を生かし、学年担任等で、二人組演技を細かく丁寧に見るよう意識し、実際に指導することができた。</li> <li>・倒立では、初めから地面に手を付けて倒立させたり、倒立する児童の足を持ったりする等、倒立に至るまでの段階を工夫し、配慮することができた。</li> <li>・運動会当日の二人演技は、様々な組み立て方を工夫し、ほぼ全てを完成させることができた。特に、倒立については、一組一組足の上げ方は違っても、各組が工夫して完成できたのがよかった。</li> </ul>
	内容 (1人から5人技練習・通し練習) <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者は4名。</li> <li>・水分補給への対応、肯定的評価による指示、ゆとりのあるテンポでの動きが実施されていた。</li> <li>・練習が始まったばかりで、全体的に技の完成度という面では高いとは言えない。</li> <li>・クイックピラミッド、2人～3人技で5組ほど完成できないグループがあった。欠席児童の代わりに技に加わっている教員がいたが、それよりも完成できないグループの安全確保の指導を優先するように指導した。</li> <li>・新たな指示がないままに、繰り返し活動させることで児童の集中が緩んでいた。指導にメリハリを付け、活動のねらいを一つ一つ丁寧に示すよう指導した。</li> </ul>	内容 (通し練習) <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者は6名。</li> <li>・若手教員の動きは事故防止を意識して適切に改善されていた。</li> <li>・全体的に完成度はまだ高いと言えないが指導する教員からは「できると信じてやろう。」といった励ましばかりだったので、できるようになるための具体的な指導をするよう、管理職に教員への指導を依頼した。</li> <li>・技ができなかったり、人数が足りていなかったりするグループの児童は、自分たちで考えた動きをしていた。事故の元なので、できなかったときにどのような動きをするのか具体的に指導するよう依頼した。</li> </ul>	
H	訪問日時・場所 (9/21 (木) 5校時 体育館)	訪問日時・場所 (9/26 (火) 3校時 校庭)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「和」というテーマの下、全員で日本の四季を表現した。</li> <li>・組体操の技は、1人技、2人技、集団演技が中心に行った。</li> <li>・危険度の高い技には、教員がそれぞれ付き、適切に補助を行い、本番もけがなく終えることができた。</li> </ul>
	内容 (1人～3人技、波) <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者は5名。</li> <li>・児童は非常によく集中し、移動時も素早く動いていた。</li> <li>・聞く活動、演じる活動、見る活動がバランス・テンポよく配分されていた。</li> <li>・動きの説明も分かりやすく丁寧に、児童の理解がスムーズだった。</li> <li>・若手教員の場に応じた動き方、指導の仕方については、具体的に指導するよう管理職に依頼した。</li> </ul>	内容 (通し練習) <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者は6名。</li> <li>・肩車された児童三人が手をつないで反り返るといった比較的危険度の高い技には、教員がそれぞれ補助に付き、適切に補助していた。</li> <li>・若手教員の動きについて、完成度が低いグループに付くなど前回に比べて大いに改善が見られた。</li> </ul>	
I	訪問日時・場所 (9/20 (水) 5校時 体育館)	訪問日時・場所 (9/28 (木) 1、2校時 体育館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校は「〇小ソーラン」とし、「南中ソーラン」の前後に組体操的な要素の動きを入れた。</li> <li>・一人技 (バランス・肩倒立・ブリッジ) 二人技 (バランス) 三人技 (扇) →学年毎の波→南中ソーラン→フィナーレとして学年ごとの垣根という流れで行った。</li> <li>・フィナーレの垣根で上に乗る児童の足を伸ばすことによって安定するとの指導を受け、その後、安定した技にすることができた。</li> <li>・安全面の配慮ということで、高さのある技、危険度の高い技は控えた。</li> </ul>
	内容 (ソーラン節、一人技、波) <ul style="list-style-type: none"> <li>・5、6年合同、指導者は5名。</li> <li>・波の指導では、腕の上下 (右腕が上、左腕が下など) についてしっかりと確認するよう依頼した。</li> <li>・けがにより運動できない児童には、役割を与えて参加できる工夫をするよう助言した。</li> <li>・金具のヘアピンを頭にしていたり、手首にヘアゴムを巻いたりしている女子児童がいた。全体で統一して指導するよう依頼した。</li> </ul>	内容 (通し練習) <ul style="list-style-type: none"> <li>・5、6年合同、指導者は5名。</li> <li>・ソーラン節では、5年生の動きや声の大きさなどがよく、6年生を引っ張っていた。</li> <li>・集団行動のできない6年男子児童がいるが、本人の様子を見ながら担任が声をかけ支援していた。</li> <li>・やぐらを組む場合には、上の児童はしっかりと足を伸ばすことで安定することを助言した。</li> </ul>	
J	訪問日時・場所 (9/8 (金) 6校時 校庭)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習の指導計画を綿密に立てたため、練習が順当に進んだ。</li> <li>・朝礼台に対して後ろ半分の児童の向きを変えること、お手本となる児童を示してポイントを明確にすること等の指導を踏まえ、隊形の工夫をしたり、技の精度を上げたりすることができた。計画をより綿密にすることで、技を決めるタイミングを合わせて、完成度を高めることができた。</li> <li>・運動会当日は、非常に集中していて、成功させようという強い気持ちをもって、どの技もよくできていた。</li> <li>・高い塔のようなものではなくても、子どもの頑張りが伝わったと保護者から感想をいただいた。</li> </ul>

	学校への指導・助言等①	学校への指導・助言等②	学校からの報告（成果や課題・当日の様子など）
K	訪問日時・場所 (9/21 (木) 1校時 体育館)	訪問日時・場所 (10/4 (水) 2校時 校庭)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間起こしの補助の入り方（前に一人、倒れたときの後頭部付近に一人）、倒立の補助の立ち位置、肩倒立の腰の支え方、技を組んでいる最中や上げる、下げるときの声のかけ方、笛の合図で技の決めを知らせる等の指導主事の指導・助言を参考に、運動会当日は教員の補助が20人以上入り、グループごとに安全面に配慮して行うことができた。</li> <li>・児童も集中力が高まっている様子が見られた。</li> <li>・練習時と違う環境ではあったが、朝のうちに立ち位置を確認して実施することができた。</li> </ul>
	内容（1人技、2人技、3人技） <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者は、8名+副校長。(児童5, 6年180名)</li> <li>・服装、女子の髪ゴム、爪、眼鏡等の注意があり、よい緊張感の中で行われていた。</li> <li>・さらに主体的に取り組ませるために、児童にめあてを言わせたり、学習の流れを視覚的に説明したりするよう助言した。</li> <li>・今回は、音楽に合わせてタイミングの確認が主であったが、各技を全体で同時に行う際の注意事項を指導した。</li> <li>・倒立では横向きで足をキャッチすることを指導した。</li> <li>・肩車では、下の児童が前を向き、垂直に上げることを指導した。</li> <li>・必要に応じてマットを敷くことを指導した。</li> <li>・技の完成時にはしっかり顔を上げさせることを指導した。</li> <li>・上に乗る技では、お互いにしっかり声をかけさせることを指導した。</li> <li>・技の解除の仕方も含めて演技として指導すること、また、危ない状況の場合、どのようにするのかを指導することを指導した。</li> </ul>	内容（通し練習） <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者は9名。</li> <li>・倒立の足を横向きでキャッチしたままの姿勢を維持するのが大変な児童が多かったので、キャッチした後は、正対して一步下がるとよいことを助言した。</li> <li>・肩車からのサボテンを行っていたが、声がよく出ていて、解除の仕方も統一されていた。</li> <li>・ミニタワーややぐらでは、土台の児童は、足を開くことで安定すること、上の児童が上がるときに声をかけること、笛の合図で完成させること、降りるときは上の児童が手を付いてしゃがむと安全に降りられることを助言した。</li> <li>・ロケットでは、上に上がった時、下で待ち受けている児童に向かって飛び降りたりする時に大人が補助をするよう指導した。</li> <li>・ラピュタ（立体のピラミッド）では、大人が前後について補助するよう指導した。</li> </ul>	
L	訪問日時・場所 (9/12 (火) 5校時 体育館、6校時 校庭)	訪問日時・場所 (9/25 (月) 5校時 校庭)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二人技での着地の仕方、技を行う時の声の出し方、倒立時の支え方を指導主事からの指導により、できない児童ができるようになった。</li> <li>・友達と支え合うこと、心を合わせることを学べた。</li> <li>・自分の体の支持ができるようになった。</li> <li>・5・6年が一緒に取り組み、教え合いもあり、学びが深まった。</li> <li>・技の種類を工夫したことで安全にできた。</li> <li>・教員の補助を増やした。</li> <li>・大技は行わず、簡易的な技を増やした。</li> <li>・この時代に安全に配慮しながら教員が指導を行ってくれ、見応えもあり、とてもよかったとの保護者の声が多かった。</li> </ul>
	内容（1人技、2人技、クイックピラミッド）6Tは集団行動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者は、5名。(児童5, 6年51名)</li> <li>・服装が整っており、マット等の準備・片付けも意欲的に行っていた。</li> <li>・ホワイトボードで流れを確認し、見通しをもたせていた。</li> <li>・1人技のブリッジ、肩倒立、V字バランスは数名できていなかった。日常化を促し、繰り返し練習させることを指導した。</li> <li>・馬跳びの馬の状態の上で立ち上がる馬立ちでは、上の児童が降りるときは、しゃがんで下の児童の背中に手を付いてから下りよう指導した。</li> <li>・倒立では、横向きで足をキャッチすることを指導した。</li> <li>・技が完成したときは、顔を上げるよう指導した。</li> <li>・クイックピラミッドでは、一番上の子がどのタイミングでジャンプすると成功するのか、上手にできているチームを参考に、児童に考えさせるとよいことを指導した。</li> <li>・児童は、真面目に取り組んでいたが、乗ったり降りたりする時のかけ声を大きな声で言わせるとよいことを指導した。</li> </ul>	内容（通し練習） <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者は、5名。</li> <li>・笛で合図を送っていた。音楽はBGM的に使用するということが、児童の意欲を高めるためにも早い段階で使用するとよいことを助言した。</li> <li>・馬立ち、3人タワーでは、何人か降り方が危なかったため、きちんとしゃがんで下の児童の肩に手を付いて降りる指導をするよう指導した。</li> <li>・クイックピラミッドは、よく声も出ていて完成度が高くなっていた。</li> <li>・トラストフォール（人間起こし）では、安全の確保として、練習時同様大人がつくことを指導した。また、勢いがなく、上になる児童がきちんと上がっていなかったため、上げる児童が2人組で手を組む方法もあること、膝を曲げて伸ばしながら上げるとよいことを助言した。</li> <li>・児童同士のかげ声をもっと大きな声で言わせ、できたことを褒めてよさを広げていくとよいことを指導した。</li> <li>・児童の姿を動画で撮って見せると意欲を高められることを助言した。</li> </ul>	
M	訪問日時・場所 (9/12 (火) 3校時 体育館)	訪問日時・場所 (9/26 (火) 3校時 校庭)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本番は、練習にも増して集中して技に取り組み、ほぼミスなしでできた。</li> <li>・練習で不安定だったグループや、危険性が高い技の時などに、教員の補助を付け安全を確保することができた。</li> <li>・また、補助者はどこに誰が付くかを明示して、間違えのないようにした。</li> <li>・「人間起こし」では、1グループに1名の補助を付けていたが、指導主事からの指導で「起き上がる時」、「倒れる時」のことを考えて前後に補助者を付ける形に変更した。そのことで、より安全に安心して技に取り組めるとともに、保護者のアンケートでも「補助の先生がいたので安心して見ていられた」というようなご意見もいただいた。</li> </ul>
	内容【三人技（モール、すべり台、ミニタワー）、5人技（扇、山）】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者は4名。(5, 6年約110名)</li> <li>・途中で2名補助教員が加わったが、できる限り指導人数の増員を依頼した。</li> <li>・規律がしっかりしており、真剣に取り組んでいた。</li> <li>・大型TVを活用して、流れや技のポイントを確認していた。</li> <li>・かけ声が小さかったため、意欲を高めながら大きな声を出すよう指導した。</li> <li>・ミニタワーでは、上の子が不安定な状態で足首をもつと危険な場合があるので、お互いの意思疎通の中で、危ないときは手を離すよう指導した。</li> <li>・技のポイントを教えるときは、安全な技の解除の仕方までを含めて演技として指導すること、もし危険な状態になったときの対処の仕方も確認するよう指導した。</li> <li>・技が完成したときは、顔を上げるよう指導した。</li> <li>・扇のメンバー等は事前に決めておき、時間を有効に使うべきであることを指導した。</li> <li>・山の下になる児童は、胸をはり、前屈みにならないように後ろに体重をかけるとよいことを指導した。</li> </ul>	内容（通し練習） <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者は7名。</li> <li>・お互いのかげ声が非常に大きく、児童同士で安全面に注意して行っていることがよく伝わってきた。</li> <li>・技の完成のときに顔を上げる指導が行き届いていた。</li> <li>・倒立を横向きでキャッチした後、そのままの状態ですべての児童がいたので、キャッチした後は正対して1歩下がると支えやすいことを助言した。</li> <li>・サボテンを、肩車を使わずにより安全に行っていた。</li> <li>・人間起こしでは、下の児童が膝を曲げて勢いをつけ、声をそろえて上手に行っていたが、安全面に考慮し、もう少し間隔を空けて、前後に大人を付けるよう指導した。</li> <li>・全員ピラミッドを3つ作っていたが、それぞれ手を付いた状態の4段で、上に立つ児童はなしで安全に行っていた。</li> </ul>	

	学校への指導・助言等①	学校への指導・助言等②	学校からの報告（成果や課題・当日の様子など）
N	訪問日時・場所（9/13（水）5校時 校庭）	訪問日時・場所（9/20（水）2校時 体育館）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2段タワーより高さのある技には取り組まない、倒立はできる子を中心に置くのみ等、安全に配慮した組体操の構成だったため、安全上の問題は当日含めて、特に生じなかった。</li> <li>・組体操の構成で、危険を伴うものは外す、若しくは補助を付けて実施した。</li> <li>・事前に指導者も児童が行う技を実施し、どの程度負担があるのか実感しながら指導した。</li> <li>・指導主事からの励ましの言葉をいただき、児童に伝えた。地域の人たちも期待してくれていると実感し、運動会に対する児童の充実感が増していた。</li> <li>・手の位置をそろえる指導を踏まえ、より完成度が高くなった。</li> <li>・体を伸ばすところは伸ばし、縮めるところは縮める等、表現の基本の指導踏まえ、児童の動きが大きくなった。</li> <li>・保護者のアンケートからは、改善点として2点挙げられていた。①実施期間が3週間と短かったため、一日の運動量が多く、児童が負担を感じていた②表現運動の部分で完成度がもう少しほしかった。これ以外のアンケートは非常に好意的なものであり、安全に配慮した経緯なども理解のある保護者がほとんどであった。</li> </ul>
	内容（波、メトロノーム）	内容（通し練習）	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者は6名。6年単独の演技である。</li> <li>・指導計画を丁寧に作成し、技のポイントをしっかりと押さえている。教員同士の共通認識ができるとさらに良い。</li> <li>・指導の中心となる教員は、指導主事が訪問した授業の学習指導略案を作成し、安全面への配慮や技のポイントも踏まえて指導していた。</li> <li>・波の動きについて細かく指導していた。</li> <li>・教員がいないグループも児童が主体的に練習に取り組んでいた。</li> <li>・メトロノーム（人間起こし）は、教員がしっかりと児童の安全を確保できる場所で指導するよう依頼した。</li> <li>・暑さへの対応や、こまめな水分補給についても配慮するよう助言した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者は3名。</li> <li>・雨のため、体育館での学習となり、技のポイントを確認する時間が中心であった。</li> <li>・児童の動きはキビキビしており、児童が主体的に活動できている。</li> <li>・クイックピラミッドでは、上段に乗れない児童がいた。手の位置が土台の児童の背中を中心付近となっているため、肩付近に手を置くよう助言した。</li> <li>・波の動きで腕の位置がバラバラになっている児童がいたため、再度確認するよう依頼した。</li> <li>・行進の場面では、足ではなく、両手を肩の高さまで上げて、表情よく行進するとよいことを助言した。</li> <li>・金属のヘアピンをしている児童がいたので、再指導を依頼した。</li> </ul>	

## 【全体をとおしての成果と課題】

### <成果>

- 児童・生徒の実態に合った技の選定により、大きなけがのリスクを減らす学校が多かった。
- 高さのある技よりも、動きの統一感、表現力を見せようとすることでリスクを減らしていた。
- 4月当初に体育実技研修を行ったことで、実技研修で扱った技を取り入れた学校もあり、教員に、安全な組体操にしようとする意識が見られた。
- 春の運動会の様子を共有したことで、より安全な組体操にしようとする意識が見られた。

### <課題（チェックポイント）>

- 1件骨折と診断された事故が発生した。けがが起こったのはサボテンの練習中である。高さのある2～3人の技を同時に行わせる時は、どうしてもけがのリスクが高まる。実技研修で行った3人のサボテンにしたり、技のポイントを確実に指導したりする等、児童・生徒の実態に合わせて、けがのリスクを減らす更なる努力が必要である。
  - ・「サボテン」・・・土台役の人は、上の人ひざをもつ。すねや足首をもつと、上の方は前に落ちやすい。
  - ・「倒立」・・・補助役の人は、倒立する人の横に立つ。振り上げ足を横からつかんで、顔に当たるのを防ぐ。
  - ・「肩車」・・・下の方が立ち上がる時の姿勢が重要。前かがみにならず、背中を立てた状態で持ち上げる。
- 事故が起こった場合、けがの軽重にかかわらず、速やかに報告するとともに、原因究明、指導体制を確認し、保護者や当該児童への配慮した対応、週案の確認を徹底していく必要がある。
- 高さのある2～3人の技を同時に行わせる時は、どうしてもけがのリスクが高まる。技のポイント、危ない時の安全な解除の仕方等を指導する、児童の実態に合わせて、けがのリスクを減らす更なる努力が必要である。
- 「人間起こし」「ロケット」等高さのある技では、本番は大人数で補助に付けるものの、練習時には、補助に付く大人の数に限りがある。常にもしものことを想定し、時間差をつけて1つの集団につき、最低2人は大人がついて、補助に当たる等安全面に配慮して行う必要がある。
- 児童にダンスや集団行動等他にも表現方法がある中で、なぜ組体操を行うのか考えさせ、みんなで協力して作り上げるよさ等を共有し、意欲を高める必要がある。技を組むとき、お互いに声を掛け合ったり大きな声でそろえたりしながら取り組むことで、一体感が生まれるだけでなく、安全面の強化にもつながる。